

御前山ビオトープ通信

平成17年12月30日
第19号

編集： NPO「美しい田園21」 清野

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページに掲載記事等を再編集したものです)



【案内図】



目次

- 1 「久慈川・那珂川見聞録」 第23号

特集2 ● 流域の希少な生きものたちを守れ! (那珂川)

ダム水没予定地の希少動植物を保護する「御前山ビオトープ」

約五十ヘクタールの水没予定地には、県レッドデータブックで希少種に指定されているタコノアシやハチチョウトンボなど、数多くの希少な動植物が生息する。このため、貴重な生きものを守ろうと同事業所の呼びかけによって、自治体や地元住民とが一体となった保護活動が続けられている。

長期的な保全を図るために、恒久的な移植地が必要

那珂川と合流する相川に建設中の御前山ダム(常陸大宮市上伊勢畑)平成二十年完成予定。那珂川沿岸に広がる約五千五百四十八ヘクタールの農地に安定的に農業用水を供給することを目的に、農林水産省関東農政局の那珂川沿岸農業水利事業所(水戸市中河内町)が建設を進めている。



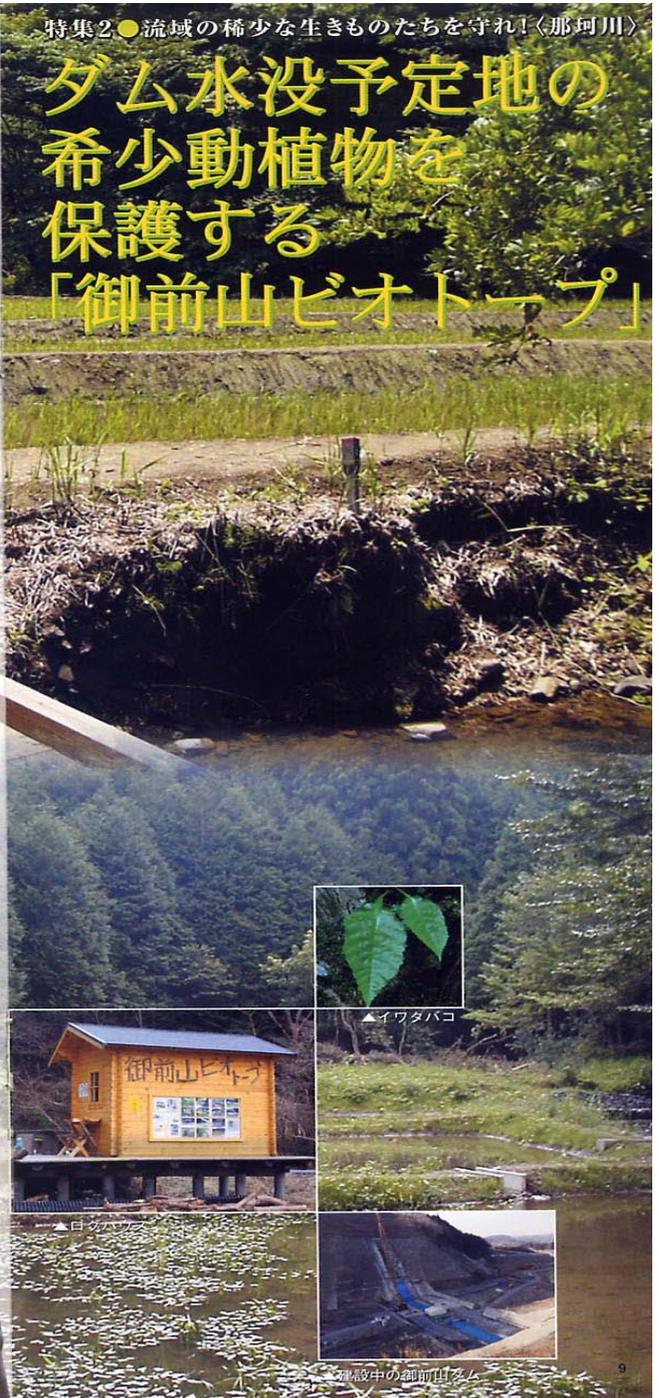
【ビオトープとは】ドイツ語のBio(生き物)+Top(場所)を意味する言葉として、「Biotop(生き物の住む空間)」となった合成語。ビオトープ事業とは、生き物が暮らす生態的空間を保護・保全・復元・創出すること。

「平成十一年度の御前山ダム着工に先行して、まず希少種を工事対象の地域外に移植することになりました。林間の植物は旧御前山村の村有林に移植しましたが、湿地性植物は適地が見つからず、ダム予定地の渥水敷地内に緊急避難的に仮移植しました。しかし、長期的な保全を図るためには、恒久的な移植地が必要です。また、地域との連携、環境教育を実践する場も必要と考えました。そこで旧御前山村と相談するなかで、ビオトープ構想が生まれ、た「同事業所次長の古藤恒さん」

「ダムに近い場所で、自然環境が保全されている場所というのが第一条件でした。また、人の出入りが少ない場所ということにも考慮しました。最適地として候補にあがったのが、檜山地区谷津坪沢やつつぼさわで、そこにあった休耕地を村で購入しました」

その後、同事業所では、檜山地区の住民と一緒に環境保護などの勉強会を行う一方、学校関係者との連携を図るなどの準備を始め、旧御前山村と共同でビオトープ設置に取り組んだ。

長山安隆さん ▶



▲イワタバコ



▲日ノ子

建設中の御前山ダム

◀アギナシ

総合学習にも位置づけられた 希少種の保護活動

ダム建設予定地から南西に三キロほど離れた「谷津坪沢」につくられた御前山ピオトープは、約三十アールの広さ。さまざまな生物が暮らせるように、深さの違う池や田んぼ、湿地、水路などを整備。ダム完成までに、段階的に動植物を移植していく計画である。

具体的な移植活動は、平成十八年から始められ、同年六月に「第一回希少動植物の引越し大作戦」を実施。同地区の伊勢畑小学校の児童多数が参加し、タコノアシ、アギナシなど湿地性の希少植物を移植した。また、同時に古代米の田植えなども行われた。



清野修さん

する人に与えられる「ピオトープ管理士」の資格を持つ。



「希少動植物を保護するには、ふたつの保護区が必要です。ひとつは、乱獲を防ぐため秘密にして完全に保護する区域。私が在任していたときでも十数カ所に希少植物を移植してあります。もうひとつは、ピオトープづくりです。これは、保護活動を行うことに加え、多くの人たちに関心を持っていただける場です。環境保護の大切さを地域の方々がさまざまに考えたり、具体的に保護の方法を教えたりできる場としての活用が期待できます。」

清野さんが意図したよ

ホトケドジョウ



▲左からメダカの放流、第3回希少動植物の引越し大作戦での集合写真、フタバアオイの移植作業



◀ホトトギス

「この活動は、学校教育の『総合的な学習』の一環にも位置づけられています。私も事業所でも、移植前に学校に出かけ、出前講座を開催し、環境保護の考え方や、御前山の自然、移植植物の説明などを行いました。」(吉藤さん)

年間のピオトープ管理、田んぼの手入れなどでは、地元、檜山地区のボランティアが活躍している。なかには毎回、川崎から駆けつけるボランティアもいるという。



▲吉藤さん

「私は、移植活動に参加する子どもたちによく言っています。「君たちは幸せだ。こんな希少な動植物を直に手で触れたり、じっくりと観察するチャンスがあることは、すごく幸せなことなんだよ。将来、きつと君たちの宝物になるから大切に育てようね」と。すると、どの子も大きくうなづいて、非常に熱心に取り組んでくれます。また、このピオトープづくりを通じて、地元のお年寄り子どもたちの交流の場ともなっています。」(檜山地区長の国安清さん)

環境保護の大切さを 地域住民がさまざまに考える ピオトープづくりを！

同事業所で昨年の九月まで、このピオトープづくりを積極的に推進していたのは前事業所長の清野修さん(現・水資源機構豊川用水総合事業部長)。清野さんは、ピオトープ事業や自然再生事業を効果的に推進するために必要な知識、技術、評価・応用能力を有

ハッチョウトンボ



うに、御前山ピオトープは、児童の総合学習の場だけでなく、地域住民が環境保護を学ぼうとしても貴重な場となっている。また、地域の人たちと連携して持続的に取り組んでいくことが「御前山環境保全市民ネットワーク」も立ち上げられ、現在そのNPO法人化の準備も着々と進んでいる。なお、これまでに、御前山ピオトープへの移植活動は四回行われている。移植した希少植物はアギナシ、ナガエミクリ、タコノアシ、フタバアオイ、イヌシヨウ、クモノシダなど。また昆虫は、ハッチョウトンボなど。今後は、エビネ、イワバコ、ムカシトンボ、ホトケドジョウ、オオムラサキなどを移植・保護する計画だという。

▲古代米の田植え風景(左)、ハッチョウトンボの幼虫を移植(右)

●お問い合わせ/農林水産省関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所 TEL.029-227-7571

国安清さん

